

第1回 石巻市行政経営戦略会議 会議記録

日付：平成26年6月20日（金）

時間：18時00分～20時10分

場所：石巻市役所4階庁議室

1 委嘱状交付

亀山市長より各委員に委嘱状を交付

2 市長あいさつ

亀山市長あいさつ

3 委員及び担当職員の紹介

資料に基づき委員及び担当職員を紹介

4 行政経営戦略会議について

資料に基づき行政経営戦略会議について説明

5 会長・副会長の互選

事務局案を求める意見があり、以下のとおり事務局案を提示、承認

会 長：成田 由加里 委員

副会長：山下 英朗 委員

※ この後、山下副会長は退席

6 会議

進行は成田会長が実施

(1) 石巻市を取り巻く状況について

ア 震災からの復興状況

イ 財政等の状況等

会長： それではこの議題について事務局から一括で説明をお願いします。

事務局： 事務局より資料に基づき説明

会長： それでは、皆様から御意見や御質問がありましたらよろしくお願ひ
します。

まず、私から感想を述べさせていただきますと、震災からの復興に

関し解決すべき課題、すなわち高齢化やコミュニティの問題等については、日本が直面する課題でもあることから、石巻市の事例が先進事例になっていくのではないかと考えています。

財政面での質問ですが、派遣職員に対する財政負担はどのようになっているのでしょうか。

事務局： 資料4の4ページの表にあります地方自治法に基づく他団体からの派遣職員の経費については国から措置されております。

会長： そうしますと資料4の1ページにあります歳入歳出の総額にはこれらの経費も含まれているということによろしいですか。

事務局： そのとおりです。

委員： 市が実施する事業で国からの補助金があると思うのですが、事業のうちどれぐらいの割合の事業が国の100%補助なのか、1/3補助なのかとか分かりますか、というのも、どれぐらい市の負担が生じているのか、将来に向けてどれぐらい負担が残るのかという面で知っておきたいので教えてください。

もう1点、人口流出の問題を心配しているのですが、将来に向けてある程度の見通しをつけてやっていかないと、建物を作りました、人がいません、では財政面ではよろしくないのかなど。また、出生数について平成25年度がいくらなのか知りたいのですが、あとで構わないので教えてください。

事務局： 補助金、国からのお金の出方としては、大きく3通りありまして、災害復旧事業、復興交付金、これらに当てはまらない補助金、最初の2つについては100%補助されますが、3つめ、例えば市立病院の建設補助金等については別途要望等により獲得していかないと、補助の増額がされないものです。

また、厳密に申し上げますと、災害復旧事業や復興交付金で実施する事業でも備品は対象にならない場合がほとんどですので、手出しが発生してしまいます。

人口流出の問題ですが、住まい、雇用、生活環境の問題を総合的に考えていかないといけないものですので、これらの問題については震災復興基本計画の中で対応していくものですが、なかなか人口の推計については難しいところがあります。

それと出生数については次回にお示ししたいと思います。

委員： 資料4の7ページの歳出の中で土木費が大幅に増えている状況ですが、どの要素で増えているのか教えていただきたい。

事務局： 土木費に関しましては、県事業の負担金もあると思うのですが、復興公営住宅、集団移転、区画整理事業に係る経費など、大きな事業の経費がその多くを占めているものですし、将来的には地盤沈下に伴う

雨水の排水に係る経費についてもだいが懸念されております。

また、震災で現在建物がなくなっている場合はそれが復旧した場合には維持管理経費が掛かってくる形になります

(2) これまでの行財政改革の取組について

ア 行財政改革大綱

イ 集中改革プラン

ウ 行財政改革推進プラン

エ 行財政改革推進プラン

会長： それでは続きましてこの議題について事務局から一括で説明をお願いします。

事務局： 事務局より資料に基づき説明

会長： 特に質問がなければ次に進みたいと思います。何かございましたら後程でもかまいませんのでお願いいたします。

(3) 行財政運営プランについて

ア 行財政運営プラン策定基本方針

イ 行政経営戦略会議の進め方

ウ 行財政に対する意見

会長： それでは続きまして、この議題について事務局から一括で説明をお願いします。

事務局： 事務局より資料に基づき説明

委員： 策定体制についての質問ですが、このプランの庁内の体制の中で、総合支所長はどちらに入りますか。

事務局： 行財政改革推進本部に総合支所長も入る形になります。

委員： なぜこんな質問をしたかと言いますと、合併したことから復興が遅れているという声も聞かれるので、このような会議においても総合支所の意見も入っているんだということを見せた方がいいのかなと感じての意見でした。

事務局： 震災と合併の関係ですが、プラスの面とすれば、合併により元々の旧町の職員が本庁や他の部局に配置されていたことにより、震災後それらの職員を所属していた総合支所に配置することができたということもありました。ただし、おっしゃる通りの意見を耳にすることもありますので、このような批判については甘んじてお受けしなければならないと考えております。

委員： 削減という部分が強調されて、入ってくる部分について不足している印象があります。そこをどうするのか考えないと、イメージ的には縮小という印象を与えてしまうのではないのでしょうか。

細かい部分ですが、全体の組織図とそこに配置されている職員状況が分かる資料があると現状について理解しやすいのかなと思います。

また、今説明いただいた資料の中で、顧客満足度という言葉と市民満足度という言葉は入り混じっているので、市民目線からすると市民満足度が適切なのかなと感じますので、整理をお願いします。

事務局： 人員配置の資料については次回提出させていただきたいと思いません。

次に収入を上げるという面は、おっしゃる通り重要な部分でございますが、今回の計画については、支出を削るだけの計画でなく、復興と言う側面では、先ほども申し上げましたコミュニティ作り等の新たな取組として必要となってきますので、この辺についても御意見をいただきたいと考えております。

また、顧客満足度という視点については分かりやすい表現を考えていきたいと考えております。

委員： コミュニティについては、震災による人口の移動がかなりありましたが、生活環境が違った方々が一緒に暮らしているので、町内会の運営としては大変難しい状況となっているので、行政の方からもアドバイスをいただけるとありがたいと考えています。

資料を拝見しますと、職員の意識改革などの記載はあるのですが、議会についても意識改革が必要もあるのではないのでしょうか？

事務局： 市民に選ばれた議員さんに対して、行政側から御意見申し上げるとするのはなかなか難しい面がありますので、皆様方から御意見をいただいたものをお伝えする等の手法も1つとしてあると考えます。

会長： 今回の新しい計画策定については、策定体制の中にあるワーキンググループで検討をいただく流れになっているようですので、今いただきましたコミュニティの問題等についてもお伝えいただき御検討をお願いしたいと思います。

委員： 震災で作ることになった施設や必要となった事業についても織り込んだ上で、財政の状況等について市民に説明していかないといけないと感じます。以前、復興公営住宅の説明会を傍聴した際に、仮設にお住まいの方から「復興公営住宅の家賃をずっと無料にしてほしい」という意見があったのですが、このような要望に応えることが難しい実情について、石巻市の厳しい財政状況等をわかりやすい形で説明して、ご理解を得ていく取り組みが必要だと感じています。

また、予算規模が600億円程度だった震災前のプランで検証した内容だけでなく、震災後、2,000～3,000億円の予算規模に膨れ上がった事業の中で、将来にも維持費や必要経費がかかるような項目については、今回のプランに出来るだけ含めるよう、検討をお願い

いしたいと思います。

事務局： 事業費が何千億という規模になっているのは、震災対応事業があるため、財政規模はいずれ震災前の規模に戻るので、その規模になった際にもしっかりと行財政運営ができるようにしていくための考えをまとめていく必要があると考えています。

委員： 資料4の目的別経費の中で教育費に関連してなのですが、今子供が減っている中で、このように経費が増えているのは学校の移転や統合に係るものと理解してよろしいですか。また、移転・統合が終わった後は減っていくということによろしいですか？

事務局： 統廃合になれば歳出は減っていくことになります。

委員： さきほど市長からも将来の子供たちの育成についてのお話もありました、統廃合によるハードの経費は下がるものの、人材育成に充てるソフトの経費についても考えていかなければならないのでしょうか。

事務局： 教育における統廃合については単なる合理化という面ではなく、子供の数が少なくなっている中で、1学年1クラスというのがよくありまして教育効果としてはうまくない、やはり、集団生活の中で切磋琢磨すべきとの考えがあり、教育委員会では最低でも小学校では1学年2クラス、中学校では1学年3クラスにしていくという目標の下に結果として統合ということになり、その際に一時的にはハードの経費が増え、その後にはソフト部分の経費が増えていくのではないかと考えています。

委員： 今のお話を受けますと、統廃合だけの効果を前面に出すのではなく、ソフト部分がこうなっているというような見せ方をすれば、歳出が増えても市民は理解してもらえるのではないのでしょうか。

会長： 産業については、今回のプランの中でどのような扱いになりますか。

事務局： 個別具体的な産業施策を入れるものではなく、収入増につながる改善等の視点を考えていただければと思います。

会長： スケジュールについてですが、行政経営戦略会議は10月を目処に終了し、その後市議会全員協議会とパブリックコメントを経て行財政改革推進本部で決定という流れでよろしいですか。

事務局： 決定過程の中で、修正があれば必要に応じて行政経営戦略会議も追加で開催させていただきたいと考えております。

会長： パブリックコメントについてですが、なかなか集まらないということもありますので、うまく意見がいただけるよう庁内で検討いただければと思います。

委員： 確認なのですが、集中改革プランでは「市民と協働」という言葉は入りますか。

また、私は一般市民なので詳しくはないですが、いろんな施策につ

いて専門家等の会議をやって決めている、パブリックコメントについてもただ意見を聞くだけというものになっている。

是非、ワーキンググループで一般市民にも分かるような、例えばパブリックコメントの前に何か実施するとか検討いただきたい。

「市民と協働」という言葉を入れるのであれば、市民にもわかる形でお示しいただくようお願いしたい。

事務局： 「市民と協働の自治体経営」という視点は変わらないと考えておりますが、あとは「協働」をいかに分かりやすい目標にして具体化していくことが重要なこととなりますし、また、これからの行財政運営の中でお金がなくなっていく中で、市民の皆様に御理解をいただきながら進めていくことも必要になってくるのかなと考えておりますので、この点も踏まえてワーキンググループの中で検討してまいりたいと考えております。

会長： 今後も何か質問等がありましたら事務局で御対応いただけるということですので、よろしく申し上げます。

それでは、本日の議題について終了しましたので事務局に進行を引き継ぎます。

7 次回日程について

次回会議の開催日程については別途事務局で調整

会議傍聴者	
一般市民：0人	新聞記者：4人